

令和 8 年（2026 年）度

1 級土木技術者資格審査 筆記試験問題 C

〔専門問題〕

〔注意事項〕

1. この試験問題は**専門問題**です。全部で 19 ページです。
2. 受験申込時に選択した「資格分野」に該当する問題を選んで下さい。受験申込時と異なる資格分野を選択した場合は採点されません。
3. 解答用紙の所定欄に受験番号と問題番号（例えば、C1-1）を正しく記入して下さい。解答が問題番号に対応していない場合は採点されません。
注：「1 級土木技術者資格（鋼・コンクリート分野）」受験者のみ、問題番号を 2 つ記入して下さい。
4. 指定の字数（1,000 字以上 1,500 字以内）で解答を作成して下さい。なお、解答用紙は 1 枚につき、表裏で合計 1,500 字詰めです。
5. 試験係員の「始め」の合図があるまで、試験問題の内容を見てはいけません。
6. 「始め」の合図があったら、ただちに印刷の不鮮明なところがないことを確かめて下さい。印刷の不鮮明なものは取り替えますから手を挙げて申し出て下さい。
7. 試験問題の内容についての質問にはお答えいたしません。
8. 解答の作成には鉛筆（HB または B）を用いて下さい。
9. この試験の解答時間は「始め」の合図があってから共通問題と合わせて 2 時間です。
10. 試験時間中に途中退室はできません。
11. 「終り」の合図があったら、ただちに解答の作成をやめて下さい。
12. 解答用紙は必ず提出して下さい。
13. 試験問題は持ち帰って下さい。

〔鋼・コンクリート〕

線で囲んだ2つの問題群 A、B のうち 1 つを選び、選択した問題群で与えられている 2 問に解答しなさい。

解答用紙への記入順序については、問題番号が若い順とする必要はありません。また、2 つの解答の間に空行を設ける必要はありません。

問題群 A

- ・ C1-1、C1-2 の問題のうち 1 問題を選んで、解答開始行の左余白（解答用紙マス目欄外）に問題番号を記入し、解答しなさい。
- ・ さらに、C1-3、C1-4 の問題のうち 1 問題を選んで、解答開始行の左余白（解答用紙マス目欄外）に問題番号を記入し、解答しなさい。

(C1-1) 供用後 50 年を経過した鋼単純合成鈑桁橋の床版取替工事における半断面施工法（幅員方向を半分ずつ規制して施工する方法）は、交通への影響を抑えられる一方で、施工上の制約や品質管理の難易度が高くなる。工事中の鋼桁の構造安全性を確保するために、調査・設計・施工の観点から留意すべき事項について、800 字以上 1,100 文字以内で述べなさい。

(C1-2) 鋼橋において、腐食は典型的な損傷の一つであり、その進行速度や構造への影響は部位ごとに大きく異なる。特に腐食が集中しやすい構造部位を挙げ、その発生メカニズム、点検における評価のポイント、および耐久性向上を目的とした対策について、800 字以上 1,100 文字以内で述べなさい。

(C1-3) ひび割れが生じたコンクリート構造物に対する補修工法を 1 つ挙げ、その概要および適用する際の留意点について、200 字以上 400 字以内で述べなさい。

(C1-4) 水中でコンクリートの打込みを行うにあたり、留意すべき点とその対応策について、200 字以上 400 字以内で述べなさい。

(問題群 B は次のページに印刷されています。)

問題群 B

- ・ C1-5、C1-6 の問題のうち 1 問題を選んで、解答開始行の左余白（解答用紙マス目欄外）に問題番号を記入し、解答しなさい。
- ・ さらに、C1-7、C1-8 の問題のうち 1 問題を選んで、解答開始行の左余白（解答用紙マス目欄外）に問題番号を記入し、解答しなさい。

(C1-5) 一般的な土木構造物に用いられているコンクリートの CO₂ 排出量の概略値を示すとともに、CO₂ 排出量を削減した低炭素型コンクリートを土木構造物に適用する際の留意点について、800 字以上 1,100 字以内で述べなさい。

(C1-6) 断面寸法の大きなコンクリート構造物を構築するにあたって、コンクリートの配合設計、製造、打込み、養生までのいずれかの段階における、ひび割れの発生を抑制するための施策、その施策によって期待される効果、および適用する際の留意点について、800 字以上 1,100 字以内で述べなさい。

(C1-7) 鋼構造物に用いられる高力ボルト接合の種類を 2 つ挙げ、それぞれの特徴および留意点について、200 字以上 400 文字以内で述べなさい。

(C1-8) 鋼構造物の防食方法を 2 つ挙げ、それぞれの特徴および留意点について、200 字以上 400 文字以内で述べなさい。

〔地盤・基礎〕

次の4問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C2-1	地下構造物構築に伴う開削工における山留めについて、以下の問いに答えなさい。 (1) 山留め壁の種類を3つ挙げ、それぞれの特徴を述べなさい。 (2) 掘削底面の安定性を確保するうえで留意すべき地盤変状を2つ挙げ、それぞれについて想定される発生要因と被害形態を述べなさい。 (3) (2)で挙げた地盤変状について、それぞれの対策と注意事項を述べなさい。
C2-2	令和6年能登半島地震では、液状化にともなう民家・構造物の被害や山間地での道路被害など地盤に関わる大きな地震被害が生じた。被害から得られた知見を含め、以下の問いに答えなさい。 (1) 液状化が生じる原理について説明し、能登半島地震における液状化被害の特徴と適応しうる2種類以上の対策工法について述べなさい。対策工法は液状化発生原理のどの部分を改良したかを明示すること。 (2) 山間地における道路被害の特徴について説明し、能登半島地震の地震被害に適用しうる対策技術・設計や維持管理について述べなさい。

(C2-3以降は次のページに印刷されています。)

C2-3	厚い軟弱な粘性土が分布し、地下水位が高い地盤に新たに大規模な道路盛土を建設する計画がある。事前調査を計画するにあたり、以下の問いに答えなさい。 (1) 軟弱な粘性土地盤上に盛土を施工するにあたって懸念される地盤工学的課題を3つ挙げ、その発生メカニズムを述べなさい。 (2) (1)で挙げたそれぞれの課題に対し、実施すべき地盤調査（原位置試験および室内土質試験）の内容と得られるパラメータを述べなさい。 (3) 軟弱な粘性土を対象に地盤調査を実施し、設計用土質定数を設定する際の留意点について述べなさい。
C2-4	建設工事で遭遇する廃棄物混じり土の対応について、以下の問いに答えなさい。 (1) 廃棄物混じり土を有効利用する目的で、廃棄物と分別した土砂（以下、分別土）を土質材料として利用する場合の品質条件と管理条件について、述べなさい。 (2) 廃棄物混じり土を「掘削分別型」で廃棄物と分別土に分ける場合を想定し、対応方法として分別を行う長所と短所、分別を実施する際の留意事項を述べなさい。 (3) 廃棄物混じり土を掘削せずに地盤として活用する「未掘削残置型」で対応する場合の適用条件と検討項目を述べなさい。

〔流域・都市〕

次の4問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C3-1	近年、河川における出水頻度の低下や上流域からの土砂供給量の減少等を背景として、河道内の樹林化が進行している。 河道内の樹林化が進行することで、河川管理に支障を来す場合がある。 このような樹林化によって生じ得る河川管理上の問題を3つ挙げ、それぞれについて、その特徴と対応策を述べなさい。
C3-2	水防法に基づき、水害リスク情報として「多段階の浸水想定図」および「水害リスクマップ」の整備が進められている。流域治水の推進にあたっては、これらの水害リスク情報を活用したソフト対策の促進が求められている。 「多段階の浸水想定図」および「水害リスクマップ」の趣旨ならびに周知する利点について述べなさい。また、氾濫域における被害を低減するにあたり、これらの水害リスク情報の具体的な活用方策と留意事項について述べなさい。
C3-3	河川空間とまちの空間を融合させ、賑わいある空間の形成を通じて地域活性化を目指す「かわまちづくり」は、以下①～④のような多様な推進主体と河川管理者との協働により進められている。 ①市町村、②市町村及び民間事業者、③市町村を構成員に含む法人格のない協議会、④民間事業者 このように、多様な推進主体と河川管理者が連携した地域活性化において、現在どのような課題があるかを二つ以上述べた上で、それらの改善方策についてあなたの考えを述べなさい。
C3-4	近年、気候変動の影響により水災害の頻発化・激甚化が懸念される中、各種整備（例えば、河川整備、下水道整備、排水機場整備等）と防災まちづくりを総合的・重層的に組み合わせた、水災害に強いまちづくりの推進が求められている。 水災害に強いまちづくりの推進にあたっては、水災害リスクを適切に評価し、防災まちづくりの方向性を検討する必要がある。 まず、水災害リスクを評価する3つの因子の内容を述べなさい。 次に、市街地における水災害の特徴を踏まえ、「都市計画・防災まちづくりの観点」から、水災害リスクを低減・回避するための具体的な対策を複数述べなさい。

〔交通〕

次の3問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C4-1	自動運転技術の社会実装を加速させるためには、車両側の技術開発だけでなく、道路インフラ側からの支援や連携が必要である。将来の自動運転社会の実現を見据え、今後の道路インフラ整備のあり方について、あなたが考える課題とその対応方針について述べなさい。
C4-2	国土交通省は、2025（令和7）年7月に「自動物流道路のあり方 最終とりまとめ」を公表し、新東名高速の建設中区間等での実験および2030年代半ばまでに小規模な改良で対応が可能な区間での運用の方針を明らかにしている。自動物流道路の実装が提案されるに至った社会的背景と、検討にあたって技術者として留意すべき点を述べなさい。
C4-3	2026（令和8）年3月に中央交通安全対策会議で決定された「第12次交通安全基本計画」では、生活道路における歩行者等の安全確保の取組みの推進が位置付けられている。 このような状況を踏まえ、生活道路の安全性確保の観点から、現状の課題を整理するとともに、それらに対する対応策について述べなさい。

〔調査・計画〕

次の4問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C5-1	近年、激甚化する自然災害への対応や社会資本の老朽化が深刻化する一方、建設分野における担い手不足や技術承継が大きな課題となっている。これらを背景に、土木の調査・計画段階において、デジタル技術（AI、3次元データ、各種センシング技術等）を導入し、業務の効率化、高度化を図ることが強く求められている。調査・計画分野において、あなたが考えるデジタル技術を導入すべき具体的なプロジェクトを1つ挙げ、業務の効率化、高度化の導入例と、それにより得られる効果、また導入における留意点について述べなさい。
C5-2	自動車交通を円滑に処理する空間と捉えられてきた道路を、滞在・交流・商業活動の場として活用する動きが広がっており、その一つとしてほこみち制度が運用されている。本制度は、歩行者の利便増進と地域のにぎわい創出をめざす一方、通行の安全性確保をはじめ、公共空間の利用に伴う課題も抱えている。調査・計画分野において、あなたの考えるほこみち制度を運用するにあたっての課題を複数挙げ、それぞれ対応の方向性について述べなさい。
C5-3	EC 市場拡大と宅配便取扱個数増加、トラックドライバーの時間外労働規制強化、環境負荷への対応等を背景に、物流の持続可能性確保が重要な政策課題となっている。政府は2023（令和5）年に「物流革新に向けた政策パッケージ」を取りまとめ、2026（令和8）年には「総合物流施策大綱（2026年度～2030年度）」を閣議決定、物流効率化法と貨物自動車運送事業法が改正された。このような状況を踏まえ、我が国の持続可能な物流環境を構築していくにあたり、あなたが考える調査・計画分野としての課題を複数挙げ、その解決策を述べなさい。

（C5-4 は次のページに印刷されています。）

C5-4	我が国は、気候変動の影響による水害・土砂災害の激甚化・頻発化、南海トラフ巨大地震・首都直下地震等の巨大地震の発生等も懸念されることから、自然災害対策の重要性はますます高まっている。このような状況をふまえ、まず対象とする自然災害を1つ定め、調査・計画分野において、その自然災害に対する防災・減災対策の概要を述べなさい。そして、その防災・減災対策を推進するための課題と解決策についてあなたの考えを述べなさい。
------	---

〔設計〕

次の4問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C6-1	我が国の土木分野においては、熟練技術者の高齢化等により技術者不足が問題となっている。一方で、インフラの高齢化も急速に進み、これらのインフラの維持・更新が急務となっている。このため、設計業務においても省人化、省力化を促進していく必要がある。以上を踏まえ、以下の問いに答えなさい。 (1) あなたがこれまでに経験した業務もしくは見聞きした業務の中で、設計業務において、省人化、省力化が図れたと考える事例を1つ選び、その概要を述べなさい。 (2) (1)で示した事例において、今後改善できる点とその方策を述べなさい。
C6-2	CAE解析は、構造物の設計・開発や補修・補強の検討などで活用される機会が増えている。しかし、CAE解析の結果は入力した条件に基づいて出力されるため、その結果の解釈や評価は技術者が行う必要がある。CAE解析の品質確保のためには、様々な点で留意すべきことがある。以上を踏まえ、以下の問いに答えなさい。 (1) CAE解析の品質確保の点で、入力条件の設定や評価において留意すべきことを述べなさい。 (2) CAE解析における人為的ミス防止の観点で留意すべきことを述べなさい。

(C6-3以降は次のページに印刷されています。)

C6-3	我が国では人口減少に伴うインフラ利用需要の変化が顕著である。また、近年は気候変動の影響により自然災害が激甚化・頻発化しており、老朽化したインフラを更新するにあたっては、これらの社会情勢や自然環境の変化を的確に踏まえた更新設計が重要である。以上を踏まえ、以下の問いに答えなさい。 (1) あなたが専門とする土木構造物を1つ挙げ、「利用需要の変化」および「自然災害の激甚化」という2つの観点から、その構造物を更新する際に直面する設計上の課題をそれぞれ述べなさい。 (2) その課題を解決し、限られた予算や現場の制約の中で、安全かつ合理的に構造物を更新するための具体的な設計上の対策を述べなさい。
C6-4	鉄筋コンクリート構造物は、かぶり不足、充填不良、ひび割れ、中性化など様々な要因で鉄筋腐食が発生して耐久性能が低下する。このため、ひび割れ抑制、充填性確保、使用材料の工夫により、構造物の長寿命化を図ることが重要である。以上を踏まえ、以下の問いに答えなさい。 (1) 設計時に配慮できる鉄筋腐食対策について考えられる具体的な事例を複数述べなさい。 (2) (1) の事例から2つを選び、適用時に留意すべき点を述べなさい。

〔施工・マネジメント〕

次の5問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C7-1	コンクリート構造物の建設時あるいは建設直後に生じる初期欠陥は、構造物全体の耐荷性、耐久性等の構造性能に影響を及ぼす恐れがある。そのため、コンクリートは適切な施工によって品質を確保することが重要である。これらを踏まえ、以下の2つの問いに答えなさい。 (1) 初期欠陥の事例を2つ挙げ、その発生メカニズムならびに想定される構造性能への影響を述べなさい。 (2) (1)に挙げた初期欠陥の発生を防止するため、それぞれ材料・配合・設計・施工・計画・管理など異なる観点の方策を2つ挙げ、具体的な内容を述べなさい。
C7-2	開削工法による躯体構築方法には、順巻き工法と逆巻き工法がある。順巻き工法で計画・設計された土留め壁などの仮設構造物および本体躯体を、逆巻き工法に変更する場合の設計、計画および施工に関して、以下の問いに答えなさい。 (1) 逆巻き工法の概要と長所および短所を述べなさい。 (2) 順巻き工法で施工することを前提に計画・設計された仮設構造物および本体構造物を逆巻き工法に変更する場合において、仮設計画における問題点、およびそれに対する検討事項と解決策を、計画、設計、施工のうち2つの視点から述べなさい。

(C7-3以降は次のページに印刷されています。)

C7-3	国土交通省は、2026（令和 8）年 3 月 10 日付で「直轄土木工事における適正な工期設定指針」を改定するとともに、「直轄工事における週休 2 日の取組方針」を通知し、適正な工期設定の確保および週休 2 日の推進を求めている。 また、建設業においても時間外労働規制が完全適用される中、完成時期に対する社会的要請が強い工事も少なくない。 あなたは発注者または受注者の立場で、工期設定または工程協議に関与しているものとして、以下の 2 つの問いに答えなさい。 （1）工事に必要な工期を合理的に算定するにあたり、その算定根拠として考慮すべき事項を 3 つ挙げ、それぞれについて具体的に述べなさい。 （2）完成時期があらかじめ定められている場合において、客観的に算定した実工期との間に乖離が生じた場合の対応について述べなさい。
C7-4	建設工事では、建設・建築する対象を完成させるために、工事の事前に「施工計画」を策定する。国土交通省発注工事では、土木工事共通仕様書において、受注者は工事着手前に「施工計画書」を監督職員に提出するよう定められている。 この施工計画書の作成に関して、以下の 2 つの問いに答えなさい。 （1）「施工計画書」を作成する目的や意義、作成上の留意点について述べなさい。 （2）掘削工事を伴う土留め工事において、施工計画段階から施工中、撤去時までの安全管理について、施工計画書に盛り込むべき安全管理項目を 5 つ以上列挙しそれぞれの重要性を想定されるリスクを踏まえて述べなさい。

（C7-5 は次のページに印刷されています。）

C7-5	技術職員や担い手の不足に加え、財源不足という共通課題の中において、発注方式を工夫することで、既存インフラの点検、補修工事等維持管理業務を効率的に進めることができる場合がある。このとき、以下の2つの問いに答えなさい。 (1) 維持管理に関する業務・工事における包括発注方式とはどのような方式か説明しなさい。また、包括発注方式を適用する効果を発注者、受注者の立場から2つずつ述べなさい。 (2) 参加確認型随意契約方式とはどのような方式か、適用条件にもふれながら説明しなさい。また、参加確認型随意契約方式を適用する効果を発注者の立場から2つ述べなさい。
------	---

〔メンテナンス〕

次の 7 問題のうち 1 問題を選んで、「解答用紙」に 1,000 字以上 1,500 字以内で解答しなさい。

C8-1	生成 AI 等の先進的 AI 技術を利用したインフラ維持管理業務の改善例を 1 つ挙げ、以下について述べなさい。 ・活用するデータおよび業務内容 ・従来手法と比較した改善点 ・導入時の課題 ・将来的に期待される効果
C8-2	コンクリートの内部欠陥を検出するための非破壊試験方法を 3 つ挙げ、各々の概要および適用対象を述べなさい。
C8-3	供用後 40 年の RC 床版において、ひび割れの増加、漏水およびかぶりコンクリートの剥離が確認されている。当該橋梁は大型車交通が多く、全面通行止めは困難であり、今後も長期供用が求められている。このような条件の下で、補修、補強または取替えのいずれかの対策計画についてあなたの考えを述べなさい。
C8-4	鋼構造物に生じる代表的な損傷を 1 つ挙げ、その発生要因および劣化機構について述べるとともに、進行性の観点から調査・診断時の留意点および維持管理における措置について述べなさい。
C8-5	1980 年代以前に建設されたポストテンション方式プレストレストコンクリート (PC) 橋梁において、シース内の PC グラウト充填不足が確認された。このような充填不足が生じた主な原因について、当時の PC グラウトの材料特性および施工管理を踏まえてあなたの考えを述べなさい。
C8-6	供用中の山岳トンネルの覆工コンクリートにひび割れが顕著に発生していることが定期目視検査で発見された。原因の究明のための追加調査方法及び調査により明らかとなる原因について述べなさい。

(C8-7 は次のページに印刷されています。)

C8-7	港湾構造物は、陸上構造物と比較して調査・診断が困難な条件下にある場合が多い。港湾構造物の調査・診断における制約および課題を挙げ、これらを解決するのに有効と考えられる具体的手法について、最新の技術動向を踏まえたあなたの考えを述べなさい。
------	--

〔防災〕

次の5問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C9-1	観測技術や物理モデルの発展に加え、AI技術の導入により、近年では降雨や洪水をより高速かつ高精度で予測できるようになってきている。例えば、レーダ雨量観測、数値気象予測、分布型流出モデル、機械学習を用いた水位予測などにより、数時間先から数日先までの降雨量、河川水位、流量を予測する技術が一般的になってきている。 一方で、これらの予測情報をダムの事前放流、洪水調節操作、住民の避難判断などの防災対応に活用する際には、予測の誤差や不確実性、操作判断の責任、関係機関との情報共有など、さまざまな課題がある。 以上を踏まえ、降雨予測や洪水予測の情報を防災対応に活用する際の課題を整理するとともに、それらの課題を解決するためにどのような取り組みが必要か述べなさい。
C9-2	令和6年能登半島地震により激しい揺れとともに津波が沿岸を襲来し、石川県金沢では0.8mほどの高さを記録した。また2025（令和7）年7月末にはカムチャッカ半島付近で発生した地震により、カムチャッカ半島において広範囲の浸水をともなう津波が観測され、日本でも岩手県の久慈港で1.4mほどの津波が観測された。このように地震により生じる地殻変動は津波を誘起することがあるが、地震があればいつでも津波が発生するわけではない。 まず、津波が発生する地震の条件について述べなさい。また、津波が襲来する地点の揺れが大きくななくても大きな津波が襲来することがある。その理由について述べなさい。さらに、上記の2点を踏まえながら、ハード対策、ソフト対策を含めて社会が必要とする津波防災のシステムについて述べなさい。

（C9-3以降は次のページに印刷されています。）

C9-3	政府は「第1次国土強靱化実施中期計画」にて、災害が発生しても国家及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されるよう、2026（令和8）年度から2030（令和12）年度まで5年間におおむね20兆円強の事業を計画し、強靱な国土づくりを推進している。土木構造物は、発災時の迅速な避難や救急・救命活動、緊急支援物資の輸送、さらには社会経済活動の早期復旧・復興を支える重要な基幹インフラである。 以上を踏まえ、国土強靱化計画で推進が必要とされている施策を複数挙げ、土木構造物のレジリエンス強化に効果的と考えられる実施内容を述べなさい。
C9-4	近年我が国では、土木分野の人手不足の問題に対し、生成AIの活用が期待されている。生成AIは、さまざまな業務の自動化や情報収集に役立つが、その一方で、提示される情報には誤りが含まれている可能性もあり、その恩恵は受けつつも慎重に活用していく必要がある。このような背景を踏まえ、大規模自然災害発生時の復旧・復興活動において、効果的に生成AIを活用する方法と、活用におけるリスクおよびその対策について、具体例を挙げて述べなさい。
C9-5	2024（令和6）年6月に取りまとめられた「防災気象情報に関する検討会」の提言を踏まえ、2026（令和8）年5月29日から新たな防災気象情報の運用が開始された。河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮に関する情報等は、今回の改善により、避難情報の5段階の警戒レベルに対応して発表されるようになる。 これら防災気象情報における「土砂災害」について、従来の運用における課題および改善に至った背景を説明するとともに、改善内容について述べなさい。さらに、今後の運用上の課題を示し、その解決策について述べなさい。

〔環境〕

次の5問題のうち1問題を選んで、「解答用紙」に1,000字以上1,500字以内で解答しなさい。

C10-1	2026（令和8）年5月に、河川表流水を原水とする北海道のある事業体において、原水濁度の上昇により取水が困難となり断水が発生した。今後、全国でも同様の事象の発生が想定される。そこで、原水濁度の上昇要因を（1）大雨等の予測可能な要因と、（2）局地的大雨（ゲリラ豪雨）等の予測困難な要因とに大別し、それぞれの要因における原水濁度上昇のメカニズムを述べなさい。また、技術者として通常想定される水道施設および運用の範囲において実施可能な対策について、施設面および運用面に分けて具体的に述べなさい。
C10-2	近年の気候変動に伴い、激甚化・頻発化する局地的な豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）や線状降水帯による都市浸水リスクが増大している。これに対し、下水道分野では「雨水管理総合計画」の策定や、ハード・ソフト対策を組み合わせた「流域治水」への転換、さらにはデジタル技術（DX）の活用が急務となっている。 このような背景を踏まえ、都市の浸水被害を最小限に抑えるために下水道事業が導入すべきハード対策とソフト対策（デジタル技術の活用を含む）の具体例をそれぞれ挙げ、その概要を述べなさい。また、これらを地域社会で持続的に運用していく上での課題と解決方向について述べなさい。
C10-3	近年、EU では食品廃棄物や繊維廃棄物の資源循環が強化され、日本ではプラスチック資源循環法により、製品プラスチックの回収・資源化が進んでいる。そこで、日本とは異なる廃棄物管理の政策又は制度を導入している国を1つ挙げ、その特徴と背景を述べなさい。さらに、その比較を踏まえ、日本の廃棄物管理の課題と解決策について述べなさい。

（C10-4以降は次のページに印刷されています。）

C10-4	環境影響評価法は 2025（令和 7）年に法改正が公布され、アセス手続き見直しやアセス図書の継続公開を主体として、2026（令和 8）年から 2027（令和 9）年にかけての施行が予定されている。本法の改正に関して、目的・概要、期待される効果を述べなさい。 次に、環境影響評価法の対象事業を 1 つ選定し、事業による環境影響要因とその影響要因により影響を受けるおそれがある環境要素を示しなさい。なお、影響要因は 2 つ以上示すこととする。上記で示した影響を受けるおそれがある環境要素のうち、特に重要と考えられる環境要素を 1 つ選定し、その選定理由を述べるとともに、調査、予測、評価を行う際の留意点、環境保全措置を検討する際に想定される課題と解決方法を述べなさい。
C10-5	生物多様性の保全は、従来の自然保護にとどまらず、地域づくり、防災、企業活動、都市整備などとも密接に関わる重要な課題となっている。このような背景のもとで注目されている「ネイチャーポジティブ（自然再興）」について、その背景と概要を述べなさい。さらに、土木・都市整備分野においてネイチャーポジティブに貢献し得る取り組みを 1 つ挙げ、その実施にあたって想定される課題と、その解決方法について述べなさい。